

一般社団法人日本臨床検査医学会 臨時社員総会 議事録

日時：2019年11月21日(木) 16:30～18:00

会場：岡山コンベンションセンター 1F イベントホール (東)

出席：社員(評議員) 約 117名

委任状：71通

I. 開会

II. 理事長挨拶

開会に先立ち、名誉会員の山中學先生(東京大元教授 享年 92歳:2019/4/27)の逝去を悼み黙祷がなされた。

当法人定款第21条により矢富裕理事長が議長となり、定時社員総会の決議にあたり社員数219名のところ社員出席者数と委任状数を合わせて半数を超えるため(188名)、定款第24条により臨時社員総会での決議は成立することが報告され、吉田博理事・評議員を議事録署名人として議事を進めた。

III. 報告事項

1. 各種委員会活動報告(東條尚子 庶務理事)

2019年度各種委員会中間活動について、各委員会のまとめが資料として用意され、報告された。

1) 学術推進化委員会(委員長:柳原克紀、担当理事:吉田 博)

①2019年度学術推進プロジェクト課題に以下の3課題を採択した。

- 「クローン造血細胞が放出するマイクロパーティクルを介した血管内皮障害の機序解明と、動脈硬化性疾患リスクマーカーの探索」
代表者:神力 悟(熊本大学医学部附属病院中央検査部)
総額 100万円/2年
- 「炎症性腸疾患に対する新規バイオマーカーの探索」
代表者:岡田 光貴(京都橋大学健康科学部臨床検査学科)
助成額:総額 100万円/2年
- 「SCCmec型分類に資するメチシリン耐性表皮ブドウ球菌のゲノミクス研究」
代表者:齋藤 良一(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科)
助成額:総額 100万円/2年

②H28・29学術推進プロジェクト研究課題(以下4課題)の最終報告

3課題の最終報告を受領したが、1課題はまだ最終報告を受領していない。この課題については締め切りの2019年3月30日以降事務局から何度か報告を促しているが、2019年12月までの延長要請を受けている。

- 「細胞内DNAを検出する高感度フローサイトメトリーアッセイの開発」 代表者:宇野 直輝(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病態解析・診断学)助成額:総額 200万円/2年
- 「ガスクロマトグラフィ質量分析計を用いた疾患進行予知マーカーの探索」 代表者:蔵野 信(東京大学医学部附属病院検査部)助成額:総額 100万円/2年
- 「赤血球中MCP-1濃度と動脈硬化の関連に関する研究」
代表者:齋藤 紀先(弘前大学大学院医学研究科臨床検査学講座)助成額:総額 100万円/2年

- 「慢性気管支喘息の急性増悪の予知・予防法 気道生体防御の管理法の開発」 代表者:山中 勝正(浜松医科大学医学部附属病院検査部)助成額:総額 100 万円/2 年

2) 編集委員会 (委員長: 福地邦彦、担当理事: 村上正巳)

- ①優秀論文賞候補論文を選出し、学会賞委員会に報告した。
- ②評議員にアンケートした結果により、和文誌雑誌名とサイズの変更および電子版英文誌名を理事会に提案することとなった。
- ③和文誌の電子化を検討した。
- ④臨床病理からの転載依頼については、学術著作権協会を介することとし、ホームページにその旨記載した。
- ⑤投稿論文の審査時に医学統計の妥当性を委員会として検討することとした。
- ⑥電子化された臨床病理誌の不足分を補った。
- ⑦論文の WEB 上での査読システムの検討を行った。

3) 教育委員会 (委員長: 橋口照人、担当理事: 山田俊幸)

- ①ワークライフバランス委員会主催の「第 3 回医学生・若手医師のための臨床検査ハンズオンセミナー」を共催した。
- ②近畿支部主催の「第 4 回医学生・若手医師のための臨床検査ハンズオンセミナー」を共催した。
- ③RCPC を日本臨床検査自動化学会第 51 回大会との共催にて行った。
- ④第 66 回学術集会にて下記を企画した。
 - a)RCPC 1、2
 - b)臨床検査医学 Catch up セミナー
 - c)e ラーニング
 - d)共催: ワークショップ「臨床検査の教育&キャリアプランを考える」

4) 臨床検査点数委員会 (委員長: 古川泰司、担当理事: 東條尚子)

- ①内科系社会保険連合(内保連)宛 2020 年度社会保険診療報酬改定提案書は、学会等施行コスト調査に基づく細菌検査の増点要望、アルブミン BCG 法の評価などを含む 25 件が作成され、4 月 22 日提出された。
- ②上記提出後、5 月 13 日に内保連ヒアリングを受けた。総括の後、6 月 29 日の内保連社員総会で今期の提案書受領状況が報告され(技術提案総件数 473 件)、6 月 12 日付で厚労省へ提出されたことが報告された。
- ③同提案書に対する厚生労働省ヒアリングが 8 月 1 日に行われた。
- ④日本医師会・疑義解釈委員会よりの体外診断用医薬品の供給停止品目の検討・回答依頼に対し、コメント一件、懸念一件を伝えた。

5) 学会賞委員会 (委員長: 大林光念、担当理事: 松尾収二)

- ①平成 31 年度学会賞候補者を選出し理事会にて決定された。学術賞は「該当者なし」、検査・技術賞(田崎雅義氏)、若手研究者奨励賞(山田宏哉氏、岡田光貴氏、奥橋佑基氏、西川真子氏)、優秀論文賞(西出征司氏、松井亜理沙氏、上條途夢氏)。
- ②「日本臨床検査医学会学会賞に関する規定」第 6 条 3(推薦者)について改定案ならびに改定に伴う「学会賞応募要項」(案)および「推薦書」(案)を理事会へ提案し承認された。

6) 標準化委員会 (委員長: 菱沼 昭、担当理事: 古田 耕)

- ①2019 年 5 月 20 日にバルセロナで IFCC 国際甲状腺機能検査標準化委員会が開かれ、日本での進捗状況を報告した。

②TSHの日本人共通基準範囲決定、およびIFCC適合検査法検証のための研究を獨協医科大学臨床研究審査委員会に提出し、3月4日に承認された。6月いっぱい日本人健常人血清120人分を収集し、7月に入って10社に血清を配布した。10社は日本にて販売認可を有するメーカーである。10社よりIFCC基準適合試薬で測定した結果を報告してもらったので、現在解析中である。

7) 精度管理委員会（委員長：菊池春人、担当理事：宮地勇人）

- ①2019年度CAPサーベイ参加・進捗状況の確認、参加施設からの問合せ・クレームへの対応を行った。
- ②2020年度CAPサーベイの新規追加項目の検討を行った。
- ③外部精度管理調査の実施状況等を問うダイレクトメール（DM）アンケートの計画を検討した。
- ④2018年度CAPサーベイ顧客満足度調査の分析結果を確認した。
- ⑤臨床検査室グローバルニュースを委員会監修のもと、年4回刊行した。

8) EBLM委員会（委員長：片岡浩巳、担当理事：大西宏明）

第66回学術集会（岡山コンベンションセンター）において、委員会企画の教育セミナーとして、「大規模検査データの活用に必要な情報処理技術」というタイトルで教育セミナーを企画した。本企画では、膨大なリアルデータから基準値範囲を求める方法論として、クラスタリング技術を用いた方法の提案と、その手法の原理を理解してもらえる内容とした。これらの解析を支えるために必要とされる、リアルデータの長期的精度管理手法についても触れる計画とした。

9) 倫理委員会（委員長：横崎典哉、担当理事：古川泰司）

- ①2017年改訂「残余検体使用学会見解」についてアンケートを実施した。
- ②第66回日本臨床検査医学会学術集会で利益相反委員会合同講演会を企画し、上記についても報告した。
- ③第66回日本臨床検査医学会学術集会中11月22日に第1回倫理委員会を開催した。
- ④日本臨床検査薬協会「体外診断用医薬品の臨床性能試験ガイドライン検討活動」へ協力した。

10) 利益相反委員会（委員長：通山 薫、担当理事：古川泰司）

- ①4月1日付けで日本医療機器産業連合会より透明性ガイドライン改定の通達があり、委員間で情報共有した。
- ②5月30日に日本医学会第5回研究倫理教育研修会が開催され、委員長が参加し、委員間で情報共有した。
- ③第66回学術集会中に委員会企画2（倫理委員会 / 利益相反委員会共催シンポジウム）として、「臨床検査医学研究を展開するために…知っておくべきこと、守るべきこと」を開催する。

11) ガイドライン作成委員会（委員長：吉田 博、担当理事：東條尚子）

- ①2019年11月23日（16時35分～18時35分）に、第66回学術集会にて委員会企画「臨床検査のガイドライン2018の概要と活用法」を行なう。
- ②2019年10月30日付けで、日本医学会から各分科会に「診療ガイドライン策定にかかる企業等との関係透明化に関する要請」が通知された。

12) 検査項目コード委員会（委員長：康 東天、担当理事：谷直人）

- ①2019年は1回の委員会を開催した。JLAC10コードについて、分析物コード；新規57件、識別コード；新規1件、変更1件、削除4件、測定法コード；新規6件、結果識別（固有）コード；新規190件、削除2件を実施した。
- ②標準化が特に期待される利用頻度の高い検査項目に対して、新たな新臨床検査項目分類コード（以下、

JLAC11 一般という) を公開した。当面は、JLAC10/11 を併行運用する。

JLAC11 要素別コード表 . . . JSLM の HP より公開

臨床検査項目基本コードセット (※) . . . MEDIS の HP より公開

(※) 個々の体外診断用医薬品に、JLAC10/11 コードを対応させた一覧表

13) 広報委員会 (委員長: 小柴賢洋、担当理事: 木村 聡)

- ① 振興協会のマスコット「りんしょう犬さん」の LINE スタンプがデビュー無料頒布では運営会社に数千万円の支払いが生ずるため有料 (120 円) とした。収入は全額、臨床検査の社会的認知度向上に支出する。
- ② JACLaS 展示会初参加本学会のブースに、学術集会ポスター、臨床検査医学会の専攻医アピールと、りんしょう犬さんスタンプを英訳付きで展示した。
- ③ 秋の学術集会に、初めての試みとして学生 CPC を開催する。

14) 臨床検査室医療評価委員会 (委員長: 村上正巳、担当理事: 長沢光章)

ISO 15189 認定施設を対象としたアンケート調査を本年度中に実施する予定である。

15) 遺伝子委員会 (委員長: 前川真人、担当理事: 宮地勇人)

- ① がん遺伝子パネル検査の品質・精度の確保に関する基本的考え方 (第 2.0 版) をパブコメに基づき改版、公表した。
- ② 日本病理学会と合同で、「がんゲノム検査全般に関する指針」策定に関するWGを設置し、既に2回の会議を経て作業を進めている。
- ③ 検体検査の品質・精度の確保に係る医療法等の改正を踏まえて、希少疾患・難病の診療に供する遺伝学的検査の取り扱いをはじめ遺伝子関連・染色体検査の精度の確保の諸課題について検討中である。

16) 国際委員会 (委員長: 小柴賢洋、担当理事: 村上正巳)

- ① 2019 年度国際学会奨励賞受賞候補者を推薦し、川元 康嗣氏、山中 勝正氏、堀内 優奈氏が受賞者として決定された。
- ② 2019 年 9 月 19 日～21 日に中国西安市において第 30 回世界病理・臨床検査医学会連合 (WASPaLM) 会議が開催され、ASCPaLM 理事会に宮地勇人会長、WASPaLM 理事会に村上正巳前会長が出席した。

17) 医療安全委員会 (委員長: 中谷 中、担当理事: 吉田 博)

- ① 2019 年 11 月 24 日 (9 時～10 時) 第 66 回学術集會会期中に医療安全委員会を開催する。
- ② 2019 年 11 月 24 日 (13 時 10 分～15 時 10 分) 第 66 回学術集會にてチーム医療委員会との共催シンポジウム「パニック値を巡る諸問題と日本臨床検査医学会からの提言」を開催する。
- ③ 2019 年 12 月 1 日 医療安全全国フォーラム 2019 (京都テルサ): 中谷委員長が出席する予定である。

18) 会則改定委員会 (委員長: 東條尚子、担当理事: 谷直人)

- ① 会員たる資格の喪失に関する規定 (定款) の改定案を作成した。
- ② 機関誌等の配布、会費の納入に関する細則の改定案を作成した。
- ③ 正会員の会費年額、評議員会費に関する細則の改定案を作成した。
- ④ 理事長、副理事長、理事および監事の選出に関する細則の改定案を作成した。

19) チーム医療委員会 (委員長: 小谷和彦、担当理事: 柴田綾子)

- ①第 66 回日本臨床検査医学会学術集会においてシンポジウムを企画した。一つは「在宅医療における臨床検査」に関して、もう一つは、医療安全委員会と共同しての「パニック値の運用」に関しての企画とした。
- ②パニック値についてはその運用に関する提言をまとめたところで、多方面からのご意見を踏まえて、医療安全の面から医療現場に反映させる方向で進めている。在宅医療についてはチーム医療として臨床検査の専門家の役割について委員会で話し合っている。

20) 学術集会企画委員会（委員長：諏訪部章、担当理事：木村 聡）

- ①2019 年度の第 1 回委員会が、第 66 回学術集會中の 11 月 22 日（金）の午前 10 時より開催予定。第 66 回及び第 67 回の学術集會の概要、第 68 回以降の学術集會の運営についても審議する。委員会に先立ちジーイングス株式会社から学術集會時の演題登録システムについてプレゼンを行う。
- ②「臨床検査に何を求めるか ―各科スペシャリストからの提言―」と題するシリーズ企画の第 2 弾として、第 66 回では日本腎臓学会の柏原理事長（川崎医大教授）をお招きし意見交換が行われる。第 67 回でも第 3 弾を検討中である。
- ③学術集會での演者への講演謝礼や交通費について、これまで学術集會長に一任されていたが、会員・非会員ごとに大まかな案を示し、適正な予算執行に役立ててもらうことを検討したい。

21) ワークライフバランス委員会（委員長：田部陽子、担当理事：山田俊幸）

- ①臨床検査専門医取得に関するサポートセンターで 11 件の問い合わせに回答した（1 月 1 日-10 月 31 日）。（担当：千葉泰彦 委員）
- ②ワークライフバランスに関するアンケートを実施し、244 名より回答が得られた（2 月）。（担当：千葉泰彦 委員）
- ③臨床検査振興協議会による「2019 年厚労省こども 霞ヶ関見学デー」（8 月 7, 8 日）での広報活動に参加・協力した。（担当：五十嵐岳 委員）
- ④第 3 回ハンズオンセミナー（ワークライフバランス委員会、教育委員会共催、8 月 18 日）を東大病院で実施し、HP 上で広報した。（担当：西川真子 委員）
- ⑤第 66 回学術集會でワークショップ「臨床検査専門医の育成を考える」（臨床検査医学会ワークライフバランス委員会、教育委員会、臨床検査専門医会教育研修委員会共催）を企画、実施する（11 月 24 日）。（担当：尾崎敬 委員、五十嵐岳 委員）

22) 研修施設・指導者認定委員会（委員長：村上正巳）

7 月 1 日付での再認定施設の研修施設・指導者についての適否の審査を行い、審議会に報告した。

23) 2018・2019 年度臨床検査専門医認定試験実行委員会（委員長：古川泰司）

- ①2019 年 8 月 3 日、4 日の試験実行に向け、5 回の実行委員会と、2 回の現地確認対応を行った。
- ②受験者 35 名のうち 1 名が欠席（連絡あり）した。34 名の受験者のうち 1 名については、車椅子対応（骨折）が必要であったが、全員予定通り試験を遂行できた。
- ③合否判定について、実行委員会として特段の問題なく対応できた。
- ④次回認定試験では、指定科目受験者数と受験科目が今年より多いので、特段の配慮が必要と考える。

24) 2018・2019 年度臨床検査管理医認定試験実行委員会（委員長：東田修二）

第 11 回臨床検査管理医 講習会・認定試験を 2019 年 8 月 4 日に帝京大学で検査専門医試験と同時開催した。34 名（20 代 1 名、30 代 9 名、40 代 13 名、50 代 8 名、60 代 3 名）が受験し、合計点が 60%以上であった 32 名を合格と判定した。

2. 第 67 回日本臨床検査医学会学術集会報告（岩手 2020/11/19（木）～11/22（日））（矢富 裕 理事長、諏訪部 章 会長）

2020 年 11 月 19 日（木）～11 月 22 日（日）に、アイーナ（盛岡市）で、テーマを「人工知能（AI）時代の臨床検査」として、諏訪部章会長（岩手医大）のもと開催されることが報告され、諏訪部章会長から挨拶、第 67 回学術集会の紹介があった。

3. 第 68 回日本臨床検査医学会学術集会報告（富山 2021/11/11(木)～11/14(日)）（矢富 裕 理事長、北島 勲 会長代理の仁井見英樹 副会長）

2021 年 11 月 11 日（木）～11 月 14 日（日）に、富山国際会議場、富山市民プラザ（富山市）で北島勲会長（富山大）のもと開催される。テーマは未定だが、G5 時代に入り AI を基盤に地方都市開催の特徴を踏まえた地方創成と臨床検査の関わりを考える会を考えていたが、第 67 回学術集会とテーマが重なるため、別途、企画を検討していくことが報告された。

4. 理事・監事選挙結果について（矢富 裕 理事長、古川泰司選挙管理委員会委員長）

理事・監事選挙は、選挙日程、公示：年 7 月 16 日（火）、2）立候補届受付期間：8 月 26 日（月）～ 9 月 9 日（月）、投票期間：9 月 20 日（金）～10 月 21 日（月）15 時、開票：10 月 21 日（月）で実施され、2020・2021 年度理事 7 名：1 位 村上正巳、2 位 前川真人、3 位 東條尚子、4 位 小柴賢洋ならびにメ谷直人、6 位 宮地勇人、7 位 田部陽子、2020・2021・2022・2023 年度監事 1 名：古田 耕の当選が報告された。また、2020・2021 年度支部理事は、各支部から第 3 回理事会（12/20）までに推薦される予定であることが報告された。

5. 正会員の年会費、評議員会費の改定について（矢富 裕 理事長、古川泰司 会計担当理事）

当学会の財務状況として、直近 2～3 年は赤字状況が続いていること、2014 年 4 月 1 日から消費税が 5%から 8%に上がったときは会費の値上げは実施しなかったが、2019 年 10 月 1 日から 10%に値上げされ、さらに財政状況は悪化すると推測される。また、会員マイページに関する費用負担も増えることもあり、そのため、正会員会費の値上げ（1,000 円）の実施が 7 月 18 日開催の第 2 回理事会で提案され承認され、正会員会費は 12,000 円から 13,000 円と改定された。

また、評議員会費については、他の会員とは別に資料の送付、選挙関係の書類、その他の送付等があるため、現在の 1,000 円から 2,000 円に改定する提案が 10 月 18 日開催の第 3 回理事会であり承認されたことが報告され、評議員会費が改定されたことが報告された。

6. 細則の改定について（東條尚子 庶務担当理事）

細則の改定した点について下記のとおり報告された。

- ・機関誌等の配布は、「当該年度の会費を年度内に納入したときに配布される」とする。
- ・会費納入時期は「当該年度の 3 月末日」とする。
- ・理事の就任年齢は 63 歳以下であるが、その区切りの日を、「就任時」（定時社員総会の日）から「当該年度の 4 月 1 日」とする。
- ・正会員会費を「12,000 円」から「13,000 円」とする。
- ・評議員会費を「1,000 円」から「2,000 円」とする。

7. 2020・2021 年度臨床検査専門医及び管理医認定試験実行委員長について（矢富 裕 理事長）

2020・2021 年度臨床検査専門医認定試験実行委員会委員長は、東田修二先生（東京医科歯科大学）臨床検査管理医認定試験実効委員会委員長は、山田俊幸先生（自治医科大学）が担当することが報告された。

8. 2020年度実施第37回専門医試験、第11回管理医試験 時期、会場について（矢富 裕 理事長）

2020年度6月～8月は、東京オリンピックのうえ関連学会の学術集会や認定試験が続いているため、9月12日～13日に東京（東京医科歯科大学を予定）で実施することが報告された。

9. 名誉臨床検査専門医認定制度について（山田俊幸 副理事長、専門医担当理事）

定年など年齢的な理由で、臨床検査専門医（学会認定ならびに機構認定）の更新を断念された65歳以降に1度以上更新した70歳以上の臨床検査専門医に対して、「名誉臨床検査専門医」を付与する資格認定制度を制定したことが報告された。

10. 会員マイページの運用開始について（東條尚子 庶務担当理事）

12月下旬に会員マイページの運用を予定しており、運用開始の際には、会員個別にID、パスワードを郵送でお知らせすることが報告された。

11. その他（山田俊幸 副理事長、専門医担当理事）

2020年4月研修開始の専攻医募集は、現在1次募集の採用期間（10/15～11/15）であり、12月17日より2次募集が始まるため獲得に努めていただきたいことが伝えられた。また、現在、専門医更新申請の受付中であるが、単位に関して誤った案内をしたことのお詫びがあった。なお、疑問等は問い合わせをいただきたい旨が伝えられた。

IV. 審議事項

1. 2019年度事業中間報告について（東條尚子 庶務担当理事）

2019年度事業中間報告があり、承認された。

（資料）

2. 2020年度事業計画案について（東條尚子 庶務担当理事）

2019年度事業計画（案）が提示され、承認された。

（資料）

3. 2019年度中間実績報告・2019年度補正予算案・2020年度予算案について（古川泰司 会計理事、矢富 裕 理事長）

- ・2019年度中間実績は、1月1日～6月30日までの実績額での報告である。
- ・2019年度補正予算案は、中間実績により確定した項目、再検討した項目の変更、あらたに必要となった項目の追加がある。

具体的には、一般会計の収入の部では、2018年までの実績に基づいて、正会員収入を200万円減額して3200万とした。外販収入を650万にした。試験・出版に関わる収入を実績に合わせて訂正した。

支出では、学術集会補助金運用を実際に合わせてシーズマネーの100万のみの記載とした、事務作業費などの細かな訂正があった。

・2020年予算案

一般会計では、正会員会費と評議員会費の改定による部分を反映、名誉臨床検査専門医申請料収入を追加、ハンズオンセミナー費用、ホームページ更新費用、会員マイページ管理費用、会費決済手数料をあらたに計上した。また消費税の増税分も各予算に反映し、この結果、特別会計から200万円を補填した。

特別会計では、一般会計への補填と、会員マイページ作成費用を計上した。

アジア交流基金は、16回 ASCPaLM 会議への補助金を計上した。

学会賞基金は、副賞を増額した。

以上、説明があり承認された。

(資料)

4. 定款の改定について (矢富 裕 理事長、東條尚子 庶務担当理事)

会員資格の喪失に関して、「3年を超える会費滞納したとき」という表現は、期間が曖昧であるため、「3年間の会費を滞納したとき」と改定することが提案され、承認された。

5. 2020年度からの名誉会員・功労会員・社員(評議員)の推薦について (矢富 裕 理事長)

1) 名誉会員として、理事会で推薦された一山智先生が承認された。

2) 功労会員として、各支部から推薦され理事会で承認された下記10名が承認された。

北海道支部から家子正裕先生、関東・甲信越支部から窪田哲朗先生、日高宏哉先生、三村邦裕先生、村上純子先生の4名、東海・北陸支部から米川 修先生、近畿支部から岡田仁克先生、西郷勝康先生の2名、九州支部から鷹野壽代先生、安東由喜雄先生の2名。

3) 評議員(社員)として、各支部から推薦され理事会で承認された下記8名が提示され承認された。

東北支部から植木重治先生、関東・甲信越支部から五十嵐岳先生、黒沢幸嗣先生の2名、東海・北陸支部から酒井佳夫先生、仁井見英樹先生、渡邊恒夫先生の3名、中国・四国支部から三好夏季先生、九州支部から山口宗一先生。

6. 評議員(社員)再任予定者(2020/01/01)について (矢富 裕 理事長)

2020年1月1日付評議員(社員)の再任手続きは、12月下旬の評議員審査委員会での審査後となるが、評議員(社員)の再任には社員総会の承認が必要であるため、2020年1月1日付の評議員(社員)再任予定者36名が提示され、再任単位を満たさない場合や辞任された場合は退任となる場合もあることを前提としたうえで承認された。

7. その他 (東條尚子 庶務担当理事)

2019年度に係わる定時社員総会は、2020年3月28日(土)に開催されることが報告された。

V. 閉会 (山田俊幸 副理事長)

山田俊幸副理事長から閉会の挨拶があり、臨時社員総会を閉会した。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人がこれに記名押印する。

2020年1月22日

一般社団法人日本臨床検査医学会臨時社員総会

議長 代表理事 矢 富 裕

議事録署名人 吉 田 博



2019 年度 日本臨床検査医学会 総会だより

日時：2019 年 11 月 22 日(金) 11：10～11：55

会場：岡山コンベンションセンター 3F コンベンションホール

出席数：約 200 名

冒頭、矢富裕理事長より挨拶があった。

その後、第 66 回学術集会長の通山薫会長が議長となり、名誉会員の山中學先生（東京大元教授 享年 92 歳：2019/4/27）の逝去を悼み黙祷がなされ、議事を進行した。

臨時社員総会と同じ内容の報告がなされた。

山田俊幸副理事長より、挨拶があり総会を閉会した。